

特別賞

めぐりかだんが生む交流の輪 「櫻ガーデン」



株式会社日比谷花壇 保坂悠平様

コンセプト

国分寺市西町にある中高齢者・シニア向け分譲マンション「デュオセーヌ国立」では、隣接する西町緑地と緑のネットワークを形成するため、マンション敷地内に櫻ガーデンと名付けた自主管理公園を設けています。弊社ではその特殊な環境で何を行うか、設計段階から事業主と協議を重ねて、自社展開するコミュニティデザインプログラム「めぐりかだん」を管理運営形態に組み込むことで、現在も継続的に園芸活動を通して、地域住民の心と身体の健康づくりをお手伝いしています。

空間デザインの概要説明

敷地内のオープンスペースを多世代に愛される「地域の憩いの場」へと昇華させるには、質の高い生活環境で老後を快適に過ごしたいと考えるアクティブ・シニア層を刺激する要素が必須です。コミュニティデザインプログラム「めぐりかだん」は、「栽培体験」や「収穫体験」など季節ごとの園芸活動を通して、地域交流を目的に展開するプログラムです。自主管理公園の一角には、ボーダーレスに楽な姿勢で気軽に園芸を楽しめる環境づくりとして、レイズドベッド（高床式花壇）を設置しました。レイズドベッドを、管理組合から居住者を含む地域住民に「基ずつ割り当て、ガーデニングを個々の区画で楽しめるようにしています。」

まずガーデンデザインの視点から、レ

イズドベッドに鑑賞性の高い草花やハーブをコンパクトプランツとして織り交ぜ、農業体験と高いデザイン性を兼ね備える花壇づくりを目指しました。栽培・収穫スケジュールに基づいて作成した年間作付計画は管理運営の土台となり、現地に常駐するガーデンコンシェルジュと連携しながら日々チェックを行うことで、統一感のある美しい配植を生み出します。

弊社で音頭を取りながら、体系化された年間作付計画に沿って皆で一緒に作り上げていくため、それぞれの花壇がお互いにロールモデルとなり、活動を通して楽しみながら園芸スキルを身に付けられる仕組みになっています。また「皆で一緒に」というキーワードは交流に必然性を生むため、入居者から地域住民同士やシニア層の間でも自然なコミュニケーションの促進につながっています。

クヌギやコナラ、シラカシなど雑木や宿根草を用いつつ、武蔵野の緑と調和するような野趣に富んだ植栽計画となっています。また、冬にはクリスマスリースの材料として活用できるニオイヒバやソヨゴ、初夏にはシロップづくりの材料となるウメやヤマモモを採用するなど、持続的な地域交流に利用できる樹種を選定しました。

かつて武蔵野の原風景として生活に根差した屋敷林のように、その土地から享受できる自然を取り入れながら、循環する地域交流の輪をデュオセーヌ国立から生み出していきます。

地域コミュニティを生み、自立させる

本プログラムの特徴は、お引渡しから二年間の期間限定で管理運営をお手伝いさせていただく点にあります。その理由として、あくまで弊社はコミュニティ創出のためのきっかけに過ぎず、持続的な交流を地域に根差した形で自立させるという意図に集約されます。

敷地内で採取できるドングリは地域の子供たちが自然に触れるきっかけになりますし、自らが育てた野菜や草花を地産地消として味わうことは、園芸活動を通して質の高い地域交流に寄与します。そこで、マンションが主体的にSDGsを推進していくことにつながっています。

コロナ禍で現在も不安を抱える日々が続く中、ソーシャルディスタンスを保ちながらも植物や土に触れて明るい香りを楽しみ、五感で自然を感じることは心の安定を図ることにつながります。園芸初心者にも、地域住民にも、シニア層にも、ボーダーレスに自然と生まれる会話を聞きながら、地域に笑顔を取り戻す活動となっていることをじわりと実感しています。



講評



理事 岩崎 寛

生理的、心理的健康に加え、人と人のつながりにより生まれる「社会的健康」が、健康に暮らす重要な要素となっています。しかし、現代社会では、人と人の関係が希薄になり、社会的健康を得ることがとても難しい状況です。今回、受賞された「めぐりかだんが生む交流の輪「櫻ガーデン」」は、隣接する緑地ともレイズドベッドを介して連動させ、マンションの住民同士に止まらず、地域住民とも関わる接点を提供しており、デザインだけでなく、そのコンセプトが大変素晴らしく評価できます。実際に、子供からお年寄りまでさまざまな年代の方が利用されていること、また写真から皆さんの表情が生き生きしている様子がうかがえます。

超高齢化社会に伴い、ますます地域でのケアが重要となっています。本受賞により「櫻ガーデン」が、ガーデンセラピー効果を活用した「地域ケア」のモデルとして広まることを期待します。

